

支部長就任にあたって

第56期 支部長 三浦 英生（東北大学大学院 工学研究科）

この度、日本機械学会東北支部第56期支部長を、厨川常元第55期支部長の後任として拝命いたしました。私は約20年間民間企業で研究開発業務に従事した後、2004年2月から東北大学にお世話になっております。学生時代は電子工学が専門で、企業に就職後電子デバイス製品の強度信頼性の設計評価を担当し、各種製品開発に不可欠な学術・技術基盤の構築とその製品応用展開に参画して参りました。大学に異動後は、ひずみ誘起異方的増速拡散現象に基づく材料劣化損傷の原子レベルでの定量的な可視化・評価技術とモニタリング技術に関する研究を担当させて頂いております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて2020年は、世界規模での災害、コロナウイルスという未知の感染症の蔓延と多数の尊い人命の喪失という理不尽な人類社会環境の激変で始まりました。外出の自粛が続く中で、多くの日常生活、業務形態はインターネットを活用した、「空間移動」と「場所と時間を共有する対面会話」を不要とする新たな生活スタイルへと移行しています。当初は、従来の常識からの逸脱への不安や、インターネット設備、システムの立ち上げと技術習得に戸惑い、ストレスの溜まる時間が無駄に過ぎていくことに焦燥感を感じる日々もありました。しかし、いつしか新たな生活環境で生活の質を何とか維持するために様々な工夫と挑戦を重ね、徐々にではありますが新たな価値の発現も感じ始めています。これまではスマートフォンなどは毛嫌いし、極力近づかない生活に拘って来たのですが、特に学生教育の品質の維持のために、使えるものは何でも使うという大方針展開を決意せざるを得ませんでした。気付きますとオンライン、オンデマンド教育においては学内で先頭を走りつつある自分に驚いてもおります。



理不尽な生活環境の変化はあっては欲しく無い、辛いことではありますが、その逆境に耐え克服することができれば、人類社会はより高度な知識と技術を楽しむ新たな社会を迎えることは、これまでの歴史が証明してくれています。したがって我々は元の状態に復帰、回復するのではなく、新たな社会への移行を意識し、その社会がこれまで以上に豊かで、安全で安心して生活できるものとなるように準備すべきと考えます。

本組織の本務であります学会活動に目を向けますと、組織の運営は一部の専任事務職員の方々を除いてボランティアである教員、技術者、研究者と学生から成り立っています。ボランティアが作る集団の存在意義は、人類社会の維持発展に資する、共有すべき知と技術の創造と体系化、そして教育も含めた普及にあると考えます。産業革命以降、製品技術開発は基本的に世界標準化に基づく少品種大量生産の時代が長く続きました。しかし産業技術の革新は多くの分野で飽和あるいは限界を迎え、21世紀は学際研究に基づく新たな価値の創造に加え、多様な社会ニーズを満たす多品種少量生産の時代に移行しています。このため多人数で共有すべき課題や技術基盤が消失し、企業では分社化が加速して製品寿命も急速に減少し、短時間で高性能、高付加価値を有する製品を低コストで開発するという短周期生産活動

が必須になっています。技術者は独自の個別対応短寿命技術開発に自転車操業に従事することが不可欠になり、学会活動への参画余裕など無くなっています。一方学術界では、学際研究の進展に伴い小さな学会が乱立し、一人の教員、研究者が多数の学会を兼務する時代になっています。したがって、それぞれの小さな組織の維持のための業務が繁忙となり、やはり時間と空間を大人数で共有することは不可能な時代に突入しています。

このような時代における学会活動の意義は何でしょうか？学際研究の充実には確固とした複数の学術・技術基盤が不可欠ですが、一人の人間が複数の強固な基盤を短時間で修得することは不可能です。

一方、一見遠い複数の基盤が結びつくことを気づかせることも必要です。「強固な基盤の体系化と複数の基盤間の橋渡しや気付きの機会の付与」、これがこれからの学会に求められることなのではないか。時間と空間の共有を極力減らしながらも信頼できる幅広い知のネットワークを共有できないか。そのような問題意識を持ち、その解決策の例示を私の役目と考え、微力ながらお世話になった機械学会にご恩返しができればと考えております。是非、最小限の労力でも社会貢献を確実に実現できる学会への変身にご理解とご支援をお願いできましたら幸甚に存じます。

今後の行事予定

- 東北支部第56期秋季講演会（WEB講演会）：2020年9月26日（土）
- 第51回東北学生会卒業研究発表会：2021年3月9日（火）（会場：山形大学米沢キャンパス）（予定）
- 東北支部第56期総会・講演会：2021年3月12日（金）（会場：東北大学工学部青葉記念会館）（予定）

※行事の詳細につきましては計画が整い次第、支部のホームページに掲載いたしております。

※卒業研究発表会、総会・講演会の発表を募集しております。詳しくは支部のホームページをご覧ください。

日本機械学会東北支部

〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01

東北大学大学院工学研究科 機械・知能系内

TEL&FAX：022-723-2560

メールアドレス E-mail：tohoku-br@jsme.or.jp

ホームページ <http://www.jsme.or.jp/th/>

☆ 会員の皆様のご意見、ご要望をお待ちしております。

☆ また、掲載ご希望の記事がございましたらお気軽に上記までお問い合わせください。